

# ～TANKYU～

谷地南部小学校  
校内研究だより  
2022. 5. 16  
No.3 文責 荒木秀

## 見方・考え方を教える

「教科の見方・考え方」って、みなさんはどんなことを想像されますか？先日の研修報告でも話をさせていただきましたが、私はこれが今一つよくわからないなあ（特に国語科における）ということで、個人研究を進めてきました。2年間勉強してきましたが、正直いまだはっきりしていないというのが本音です。これについても事前研や事後研の中で、先生方と納得解を探っていければいいなあと考えていました。

しかし、先日、菅野先生の授業を見せていただき、もしかしたらこういうことなのかなと思い始めたことがあります。それは、その授業（もしくは単元）を通して、それ以前と比べ、「わからないことがわかるようになった」「できないことができるようになった」が見方・考え方が広がるということではないかということです。それが、算数に関わることだったら「数学的な見方・考え方」になるし、音楽だったら、「音楽的な見方・考え方」になるということです。

午前中に学校探検をして、1年生に一生懸命学校のことを教えてくれた2年生。5時間目に、そのふり返りとして、絵日記にまとめていました。私もよくやってしまうのですが、ただ用紙を渡し、「じゃあ書いてみよう。」では、きっと見方・考え方は広がらなかったでしょう。絵日記にまとめることができるように「言葉による見方・考え方」（国語科）を広げてあげる教師の手立てが必要です。文章の書き方という形式的な面も大切ですが、低学年は何を書くかという内容面が重要になってくるのではないのでしょうか。



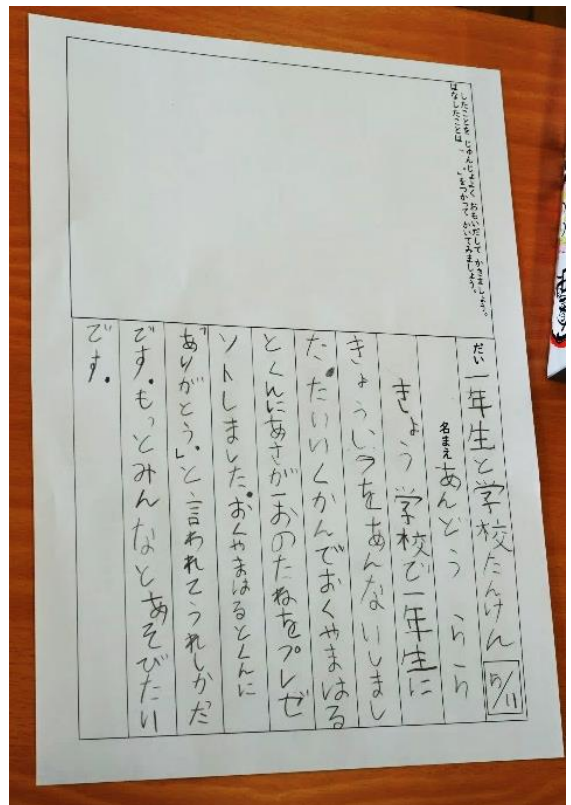
菅野先生が「言葉による見方・考え方」を広げるためにとった手立ては「写真」です。学校探検の様子を早速写真にして掲示したのです。そして、それをもとに、子ども達にどんなことがあったのかやどんな気持ちだったのかを十分に語る時間を取りました。この何気ない手立てが、絵日記ってどう書くのと不安に感じていた子どもにとっては、真似できるモデルとなりました。「見方・考え方」（この時間の場合「書き方」）が広がったのです。

裏面に続きます

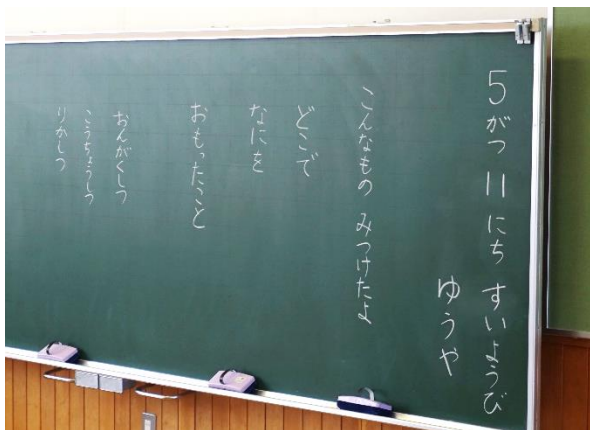
ちょっとだけ先輩風を吹かせてもらおうと、その出てきた言葉も板書してあげると、子ども達は後で自分のペースで活用できたかもしれません。ぜひ今度やってみてください。

「じゃあ、書いてみましょう。」菅野先生の指示の後、ためらわず文章を書く子ども達の姿がありました。ららさんの文章も素直な気持ちが表れていて、いいですよ。ららさんは、学校探検の中で、はるとくんの「ありがとう。」が一番心に残ったということが伝わりますね。

「見方・考え方」の正体は、その時間（単元）のめあてと捉えていいのかなと考えます。そして、そのめあては、教師だけがわかっているのではなく、児童と共有する必要があるし、児童がふり返りやすいように、具体的である必要があります。



ということで、「見方・考え方」についての私の見解を述べてきました。毎回言いますが、これが正しいかどうかはわかりません。だからこそ、みなさんと共有していく必要があります。見つけましょう、南部版「見方・考え方」を。



ちなみに同時帯に、1年生教室でも学校探検のふり返りが行われていました。左写真は、小林先生の板書です。まだ文字を習い始めたばかりの1年生なので、黒板の文字は最小限です。でも、その代わりに、小林先生、子ども達にたくさんお話をさせてくださっていました。児童の実態に合わせた手立てですね。

黒板に書かれた内容が菅野先生と似ていますね。お二人で事前にお話しされたのかな。それともたまたまですかね。

小林先生、菅野先生、私の「授業の見方・考え方」を広げてくださり、ありがとうございます。